

田中千禾夫戲曲全集

第四卷

田中千禾夫戯曲全集 第四卷

定価 四五〇円

一九六〇年八月二〇日印刷
一九六〇年八月二五日発行

著者略歴

一九〇五年生
一九三〇年慶大仏文科卒
劇作・演出専攻
昭和二年度説売文学賞受賞
昭和三年度岸田演劇賞受賞
昭和四年度週刊説売戯曲賞受賞
昭和四年度文部省芸術選奨受賞
主要著書
「物言う術」

著者 © 田中千禾夫

発行者 草野貞之

印刷者 山田博

発行所 株式会社白水社

東京都千代田区神田小川町三の二四
電話東京 〇七八一―五
振替東京 三三二二八



第一幕 第一場

肥前風土記

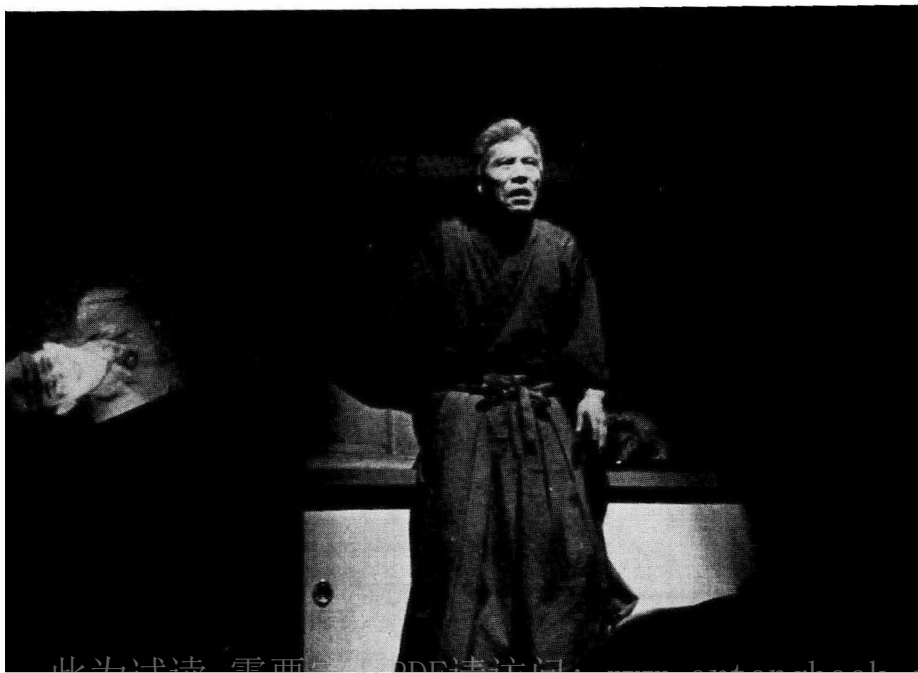
第三幕





肥前風土記 第四幕

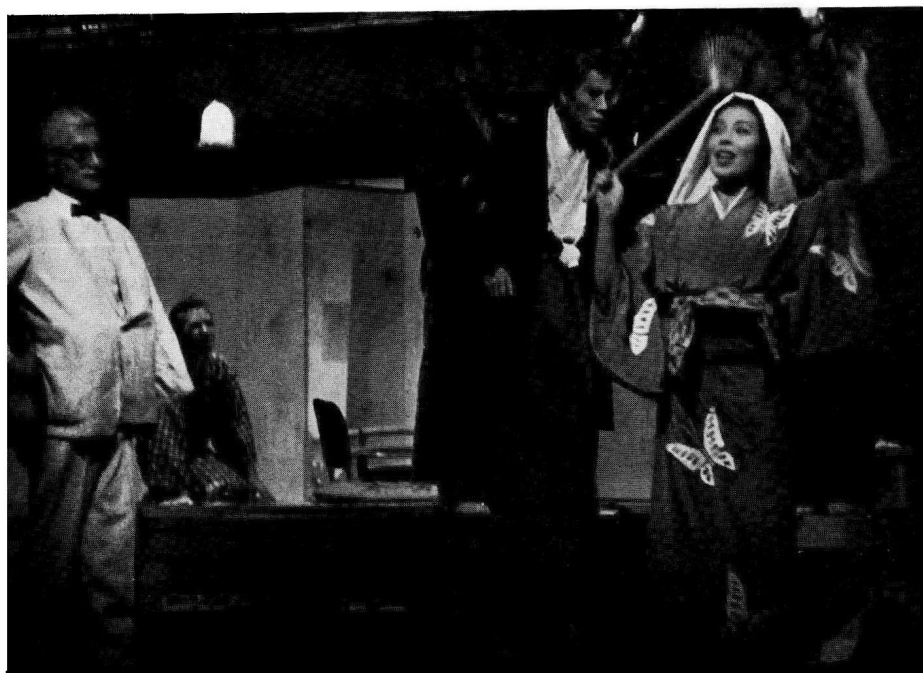
第一幕





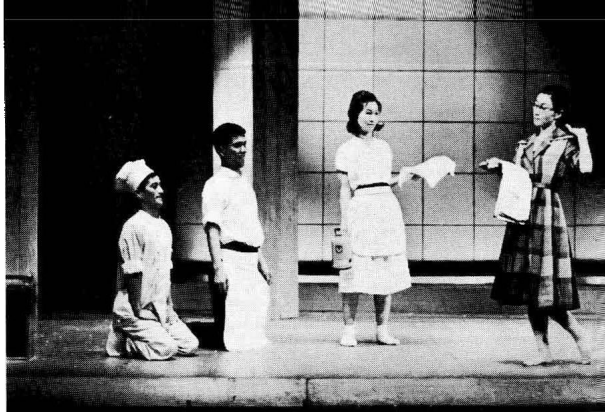
第一幕

第三幕



8 段

第 1 段



第 5 段



第 1 段



目次

[illegible]

縄

一幕

——対話体による一小曲——

登場人物
ふみ
うめ
のぶ
章
たき

二方の壁に、それぞれ一つの小窓がある大きな蔵の二階。

がらんとしているが、ただ一つ、一間半くらい古風な長持ちが壁際に長々と横たわり、も一方の壁には、藁ごが堆高く積まれ、また転任する時の運送用の木組などが雑然とすみに固められ、土間には藁縄が散乱している。

今、一つの窓はしまっているが、も一つの窓はかすかに開いていて一条の細い光線の通過を許しているのみ。従って全体は殆ど真暗だが、下へ降りる階段から、白々しい昼間の光がぼうつと射し昇って、その一帯を明るくしている。

(アレグロ)

バタバタと小刻みにかけて来る下駄の音がして、三人の女の子が蔵の一階に入って来た。次の会話が聞こえる。

ふみの声　早く早く。

うめの声　駄目よ、押しちゃあ。

のぶの声　あらずるいわ。

ふみの声　あんたそっち行きなさいよ、私にくっついてばかりいないでさ。

うめの声　だって何だかここ糠味噌臭いわ。

ふみの声　駄目だったら。

うめの声　意地悪ね。

ふみの声　その襖、破いちゃ駄目よ。

のぶの声
うめの声
ふみの声
うめの声
ふみの声
のぶの声

破けてるわ、もう。
私は、この箱の後に隠れるわ。
そこ一番いいところ。
大きな蜘蛛。おう、気味が悪い。
そんなの沢山いるわ。
あ、何だか踏んじやったい。

とたん、遠くで甲高く――「三百一、三百二、三百三、むにやむにや、三百五十六、もういいかい？」これは章の声であらう。

ふみの声
うめの声
のぶの声
三人の音
のぶの声

まあだだよ。
まあだだよ、痛い！
私じゃないわよ。まあだだよと、まあだだよ。
がさがさがさ……。
私、ここよ、邪魔しちゃうよ。

短い間。

ふみの声
うめの声
ふみの声
のぶの声

誰か二階行かない？
だって真暗じゃないの。
だから見つからないわよ。
怖いわよ。

うめの声　　そうよ。

のぶの声　　私はここでいいわ。

うめの声　　私もここでいいわ。

のぶの声　　あらいらっしゃるの、ふみ子さん？

うめの声　　上がったことあんの、ふみ子さん？

ふみの声　　あつてよ、何度も。

のぶの声　　お一人で？

ふみの声　　たきやと。

うめの声　　何があんの？

ふみの声　　何にもないの。

のぶの声　　じゃつまんない。

ふみの声　　長持ちが一つあんの、とても大きくて、汚いの……。

うめの声　　長持ち？

ふみの声　　知らないの、うめちゃん？　長持ちってね、ほら、この間の狐の嫁入に担いでたあれよ。

のぶの声　　紋がついててね。

うめの声　　何が入ってんの？

のぶの声　　そりゃ着物にきまつてゐるわね、ふみ子さん。

この時すでにふみ子の頭が、階段の下から浮き上がって来た。下駄の音は際立って反響する。そろそろと上がる。

ふみ

怖いなあ、やっぱり。(下を振り返る)

再び——「八百二十七、八百二十八、八百四十四、八百四十八、九百九十……千！」

のぶ
うめ

(下で) もういいよ。

ふみ

よ。

あら、まだよ。(勝手知ったりと見え、逸早く藁の山の上に這い上がって姿を消す) もういい

やや長い間。舞台は依然暗い。

のぶ
うめ

(下で) 章ちゃん、もういいよ。もういいよう！

(アダジオ)

誰かも一人入って来た。

章の声

あすこに蝶が飛んでいる。

黒い、黒い羽に、

黄色い縞が入って、

真赤な血のお池を、

なよなよと泳いでいる。

びろろのように濡れた胡粉が、

重たそうだ。

一匹、二匹、三匹、四匹……皆、つかまえてやるぞ。

間。

章の声　のぶちゃん、見たあ。

のぶの声　うわあ。

章の声　人臭いぞ、人臭いぞ。

のぶの声　タララタララ……。

間。

のぶの声　タララタララ……。

章の声　しっ！

のぶの声　タララタララ……。

章の声　煩い！

のぶの声　何も私邪魔してやしないわよ、タララタラ……タラ……。

章の声　やめないな、此奴。

のぶの声　やめるやめる。ひどいわ、章ちゃん。ほら、あざになった。

章の声　何だい、ちょっと、握っただけじゃないか。こちら辺だな……もうくすくす笑ってら

あ。

うめの声 うわあ。

章の声 うめちゃん見たあ……さてと。

のぶの声 さてと、タララタララ……うふん。

うめの声 さてと、タララタララ……うふん。

章の声 此奴ら！

のぶの声 (逃げて) おう怖い顔……タララ……。

章の声 いいよ、たとと歌いなさいだ。直に……見付けて……やるからね。

のぶの声 そこでもないっと。

うめの声 ここでもないっと。

のぶの声 うふん！

うめの声 うふん！

のぶの声 タララタララ……。

うめの声 タララタララ……。

のぶの声 そらここだ。

うめの声 そらそこだ。

のぶの声 タララタララ、タララタララ……。

うめの声